

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2429 号

Effect of Prophylactic Dose of Trimethoprim-Sulfamethoxazole on Serum Creatinine in Japanese Patients with Connective Tissue Diseases

膠原病疾患の日本人患者における予防投与量のトリメトプリム・スルファメトキサゾールの血清クレアチニンに対する影響

川人 瑠衣 (かわと るい)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は日本人の膠原病患者において予防投与量のトリメトプリム・スルファメトキサゾールの血清クレアチニンに対する影響とそれに寄与するリスク因子を評価した後ろ向きコホート研究である。聖路加国際病院で 2004 年から 2018 年の間に予防投与量のトリメトプリム・スルファメトキサゾールの投薬を受けた膠原病患者のうち、他の理由で急性腎障害をきたした症例を除外し、血清クレアチニン上昇に寄与するリスク因子を単回帰分析・重回帰分析を用いて検討した。262 症例で(女性 181 人、年齢の中央値(範囲)が 59(19-89)歳)解析を行った。投与前の血清クレアチニンは中央値(範囲)は 0.62(0.16-2.1) mg/dL であった。トリメトプリム・スルファメトキサゾール投与後 4 週までの血清クレアチニンの最大上昇値は中央値(範囲)で 0.07(-0.54-0.84) mg/dL であり、5 症例(2%)において 0.3 mg/dL 以上の血清クレアチニン上昇を認めた。重回帰分析で年齢、トリメトプリム・スルファメトキサゾール投与前の血清クレアチニン、利尿薬の投与歴、非ステロイド性消炎鎮痛薬の投与歴、糖尿病の罹患歴を検討し、投与前の血清クレアチニン値と年齢がリスク因子であった。この研究では血清クレアチニンと年齢が高いほど、予防投与量のトリメトプリム・スルファメトキサゾール投与後に血清クレアチニン上昇を来すことが示された。しかし 0.3 mg/dL 以上の上昇をきたした症例は全体の 2%とごく少数であり、明らかな急性腎障害を認めた場合には、他の原因で腎機能の悪化をきたしていないか検討が必要である。日本人の膠原病患者において予防投与量のトリメトプリム・スルファメトキサゾールの血清クレアチニンに対する影響を始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。